



地域の皆様には、いつも中海こども園にご理解ご支援をいただきありがとうございます。

7月中旬に園内で夏まつり（週間）を行いました。5歳児が中心となって企画し、全園児と職員が参加し盛り上がりしました。1日目は、御神輿かつぎ、輪踊りから始まり、2日目は、給食職員が作ったおまつり弁当、かき氷屋さん。3日目、4日目のメインイベントは、おばけさがし迷路と縁日（マリオカート、おばけすくい、くじびき、射撃のお店など）めぐりです。5歳児は、年下の子を楽しませてあげようと連日頑張っていました。甚平姿の子もいて、おまつり雰囲気満載でした。

さて、今回の情報誌では、6月から7月にかけて、こどもたちが園庭で砂、水、泥で遊んでいる様子をお伝えします。やりたい遊びをみつけてひとりで繰り返し楽しんでいる子、友達と共通の目的を持って協力して遊ぶ様子など様々です。小さい子が年上児の遊んでいる様子をじっと見ていたり、年上児が小さい子に声をかけたりし、どんどん遊びが広がっていきます。一生懸命、試したり、発見したり、素材の感触を楽しんだり……今しかできない遊びをとことん遊び込めることって素敵なことですね。（園長）

みんなが集う大好きな砂場

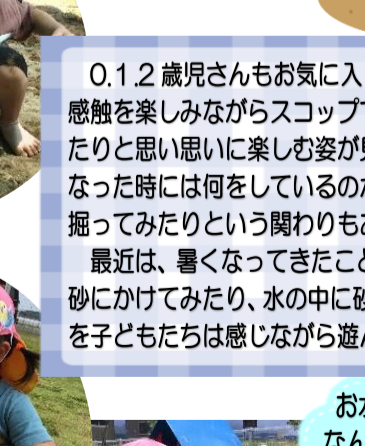
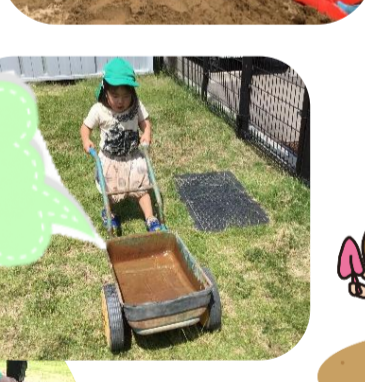


これまでの5歳児が毎年楽しんでいた水路づくりを思い出して、今年も水路づくりが始まりました。始まると、黙々とひたすら穴を掘り続け、いつしか穴掘り隊と水汲み隊に分かれていました。「ここに穴を通そう!」「よし、水を持って来い!」「はい、持ってきました!」等と言葉を交わしながら、その場所にいるみんなが水路に水を通すだけを考えて遊んでいました。その姿を見た、4歳児と3歳児も自然に集まってきて、夢中になって一緒に役割を分担し、遊びだしていましたよ。遊びを通していろんな友だちとの関わりが育まれているのを感じます。

びしょぬれ山のポンプを動かし水が出てくると大喜び。「やった〜」「つめた〜い」「気持ちいい〜」と友達と顔を見合わせて話している様子が微笑ましいです。ポンプから出た水はびしょぬれ山の下にある池の方に流れていくのですが、池になかなか水が溜まらないことを不思議に思った5歳児は排水口に栓がされていないことに気がきました。ちょうど良いサイズのバケツを持って来て排水口の上にバケツを被せ、水が溜まるように工夫していましたよ。「よし、これで大丈夫」「いい感じや」と話し、ポンプを動かしている友達にも「水出しているよ〜」と元気に声を掛けていました。友達と声を掛け合い、考えたり工夫したりしながら遊んでいます。



砂に水を混ぜ合わせ、泥作りを楽しんでいます。バケツにたくさん砂を入れたところに水をかけてみたり、穴を掘って中に水を流し入れたりサラサラだった砂が水でドロドロになる様子が面白く「見て〜」と友達と発見を共有しながら遊んでいますよ。「気持ちいいよ」と嬉しそうに話し、砂遊びや泥んこ遊びを楽しんでいる子ども達です。



0.1 2歳児さんもお気に入りの場所の一つでもある砂場で、砂に触れて感触を楽しみながらスコップで砂をすくってみたり、砂に手形をつけて見たりと思いつきに楽しむ姿が見られます。また、お兄ちゃんたちと一緒にした時には何をしているのか気になって見に行ったり、真似をして穴を掘ってみたりという関わりもありますよ♡
 最近は、暑くなってきたこともあり、バケツに水を汲んでおくとお水を砂にかけてみたり、水の中に砂を混ぜてみたりとさらさらとは違った感触を子どもたちは感じながら遊んでいます。



お兄ちゃんお姉ちゃん何してるの〜?一緒に穴を掘ってみよう!



お水と砂を混ぜてみたよ!なんかドロドロになってきた

